

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日： 令和6年 1月 15日

登録児童21名(2023.11現在) 回収17名(81%)

事業所名：児童発達支援・放課後等デイサービスあすな

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	小学校の教室程度の広さがあり、運動系の実施等も支障はない。	様々な取り組みをして頂いて感謝している。	集団療育が運動系に偏っている。改善を検討
	2 職員の適切な配置	国が定める配置基準を上回る人員を確保している。	職員がころころ変わり、分からない。	お便り等で職員の紹介も必要である。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	事業所内に段差はない。ただ、個室がなく、児童の不穏時の対応に課題。	南向きの明るい環境だと思います。	ドアが全て開き戸でケガのリスクが課題。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	のびのび過ごしてもらえる様に、必要最低限のもの以外は置かないようにしている。	きれいな環境づくりに配慮して頂き、感謝です	清潔な空間づくりはこれからも意識していく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	土曜の夕方を中心に会議を開催し、雇用形態に関わらず、広く意見を収集している。		PDCAサイクルを説明する必要がある。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	経営母体が変わった後は活用しておらず、対応が急務である。		保護者にも児童専門の方が。打診を検討。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	土曜日の夕方を利用し、各研修の機会を設けている。		外部講師を招いた研修を検討中。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	保護者のニーズを正確に聞き取る必要性から1年に2回以上の来所しての会議をお願いしている。		知らない情報を発信する必要がある。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	障害の度合いが多岐に渡り、日々の利用児童のスキルに応じた対応を心掛けている。	送迎毎に詳しく報告を頂いている。感謝して	活動内容を逐一報告している。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	明確なアセスメントシートがなく、カテゴリー別のシートを作成中である。		内容が濃く、かつ端的に分かり易いを意識。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	個別支援計画は分かり易い場所に全員分を設置。誰でも読める様に配慮している。	専門用語が時々散見され、難しい時もある。	専門職に伝えるような言い回しは避けたい。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	例えば、集団療育では3名のチーム構成で各々が得意な分野を児童にバックできる体制を作っている。		総合的な支援を熟考する必要がある。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	決まった送迎時間のみならず、家族のニーズにも十分に対応出来る様、留意している。	連絡帳から楽しい様子が浮かびます。	ルーティン化しつつ、その中での柔軟な対応。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	その為にもチームを設け、一人の職員に負担が生じないような配慮も考えている。		児童の飽きの来ないプログラム作りが肝要。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	集団活動の役割は明確化しているが、その他が管理者・児発管中心となっており、今後の課題である。		児童の担当制も導入するべきではないか。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	本項においてはIT化とは逆行するが、ノートなど紙の媒体で伝達している。読んだらサインと日付を記載するようにしている。		このスタイルを維持していきたいと考える。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	記録に関しては手書きのものがメインであり、各職員が常時閲覧できる状態ではないため、改善が必要である。		PCでの記録も開始し、情報共有に努めている
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	基本6ヶ月1回の見直しであるが、必要に応じ、適宜モニタリングを実施し、プランを見直す機会もある。		モニタリングは職員全員から聞き取る。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	セルフプランの方が多い。相談支援専門員がいる児童に関しては定期的な会議の機会を設けている。		弊社からのアプローチが重要である。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	幼稚園での対応に温度差はあるが、カンファレンス開催をを快く受け入れている事業所に関しては情報共有を行っている。		他事業所連携が重要との認識を持つ。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	現在、放デイ在籍の最年長が中2である。トライやるウィークで就労Bを体験して頂いた実績もある。		成人後のスキル養成の療育も視野に入れる。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	現在のところ、実施の実績はない。必要性があるとは認識している。		専門機関との連携は必須と認識している。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	児童館への訪問は不定期に行い、交流の機会を持つようにしている。	まだまだ流行病があるので仕方ないと思う。	今後も対応を継続していく。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に関わられた事業の運営	コロナがある程度終息した後、地域のイベント等に参加する事も検討する	まだまだ流行病があるので仕方ないと思う。	今後も対応を継続していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
保護者への説明責・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約締結時に丁寧に説明させて頂いているほか、適宜、保護者対応をしている。	丁寧な対応には感謝しています。	仕組みが難しい為、職員も周知する必要がある。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	新しい支援計画発行時は児発管からの説明を実施している。	難しい言葉がある。	保護者に分かり易い表現を心掛ける。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	現在は実施していない。	本項に関しては意見がなかった。	保護者様も支援の対象と考えている。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	紙の媒体(連絡帳)を使用し、意見交換をはじめ、苦情も受け付ける様にしている。	記載する職員に偏りがある。	具体的かつ簡潔を意識する必要がある。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	つねに窓口(主に管理者・児発管)を設け、電話対応も実施している。	職員の専門性にバラツキがある感がある。	保護者との信頼関係作りを改めて意識する。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	保護者会は設けていない。コミュニティ作りの必要性は感じている。	流行病もあり、まだ先であると思う。	不必要な情報漏洩には注意せねばならない。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	電話はもちろん、直接お会いしてヒアリングを実施している。	送迎時間の遅れを何とかしてほしい。	苦情はご意見と真摯に受け止めたい。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	自閉症スペクトラム障害の方を例にあげると非言語コミュニケーションの技法等に注視している。	丁寧な対応をして頂いていると思う。	ゆっくり、はっきり、分かりやすくを意識。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	定期的な会報の発行は計画している。	ホームページで活動は知りたいと思う。	情報の開示化はとても重要と認識している。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	守秘義務を守る様に職員には徹底周知している。	本項に関しては意見がなかった。	バイスティックの7原則の周知を行う。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	簡易的なものしかなく、いざという時に対応出来るか、やや不安も残る。	緊急時の防犯は記憶に薄い。	児童も参加しての避難訓練を実施している。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	知的障害が重い方の避難訓練への認識が課題といえる。	緊急時の防犯は記憶に薄い。	緊急時のシュミレーションを綿密にする。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	現在は虐待5類型などの基本的な項目程度だが、昨今看過できない課題であるため、ケースカンファレンスが必要と認識している。		些細な発言も虐待になる事を肝に命じる。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	個別支援計画にやむを得ない場合の対応は記載している。また、その場合は保護者報告を忘れない。		そのような場面が発生しない様、留意したい。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	事前にアセスメントの状態を把握済である。おやつに関しては特に留意したい。		職員への周知は日々の申し送りでも実施中。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	アルバイト職員にまで周知し、サイン・押印を徹底している。		同じ事故が二度起こらない事が大切と考える